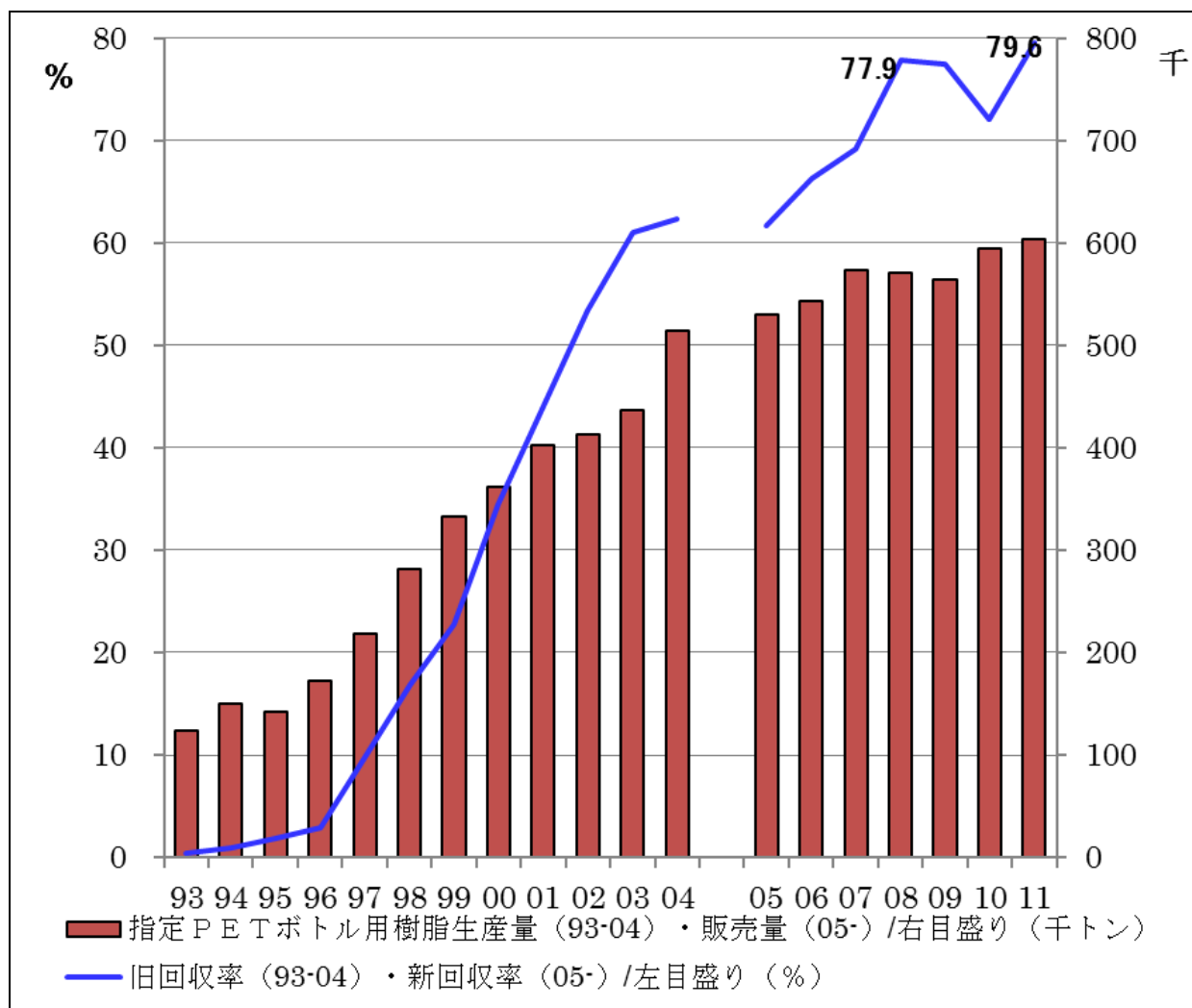


環境問題と社会教育

滋賀大学環境総合研究センター 市川智史
Tel. 077-537-7858 ickw@edu.shiga-u.ac.jp

1. イントロダクション
2. 環境教育の方向性
3. 環境教育の目的・目標
4. 環境教育の3つの視点
5. 環境教育の方法 ― 参加体験型
6. 持続可能な社会の視点
7. 環境教育プログラムの例



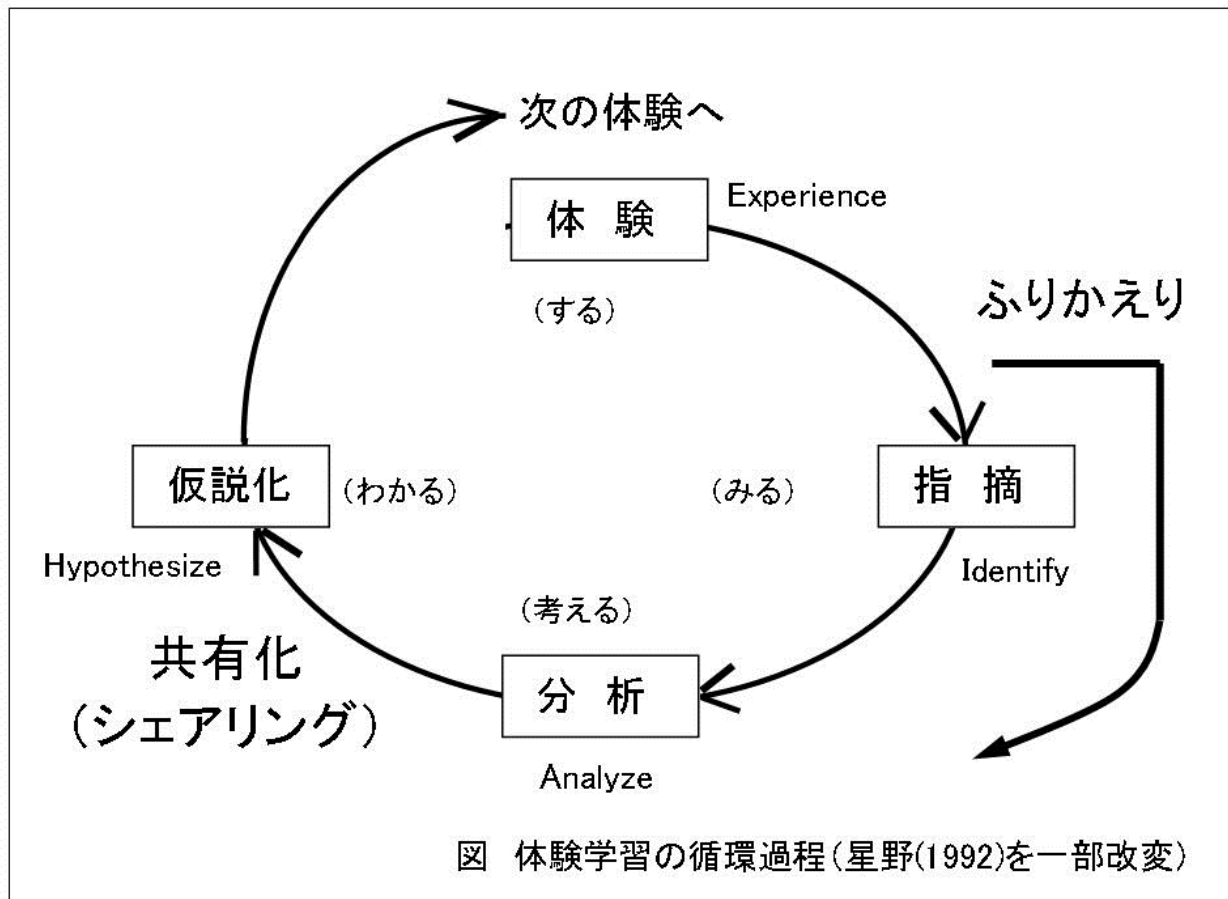
PETボトルリサイクル推進協議会より作成
<http://www.petbottle-rec.gr.jp/data/transition.html>

旧回収率	樹脂生産量 (トン)	回収量計 (トン)	回収率%
1993	123,798	528	0.4
新回収率	PET ボトル販売量 (トン)	回収量計 (トン)	回収率%
2008	571,363	445,457	77.9
2011	603,951	480,974	79.6

[カラー・フェアリー・ワールド]

- 自然界の多様なかかわり・つながりを意識化する
- お互いに協力する態度を身につける

時間	活 動	留意点・準備等
5分	○各自にクレヨンを1本ずつ渡す (色の異なる者同士で、グループ(5~6人組)を作る。)	クレヨン(人数分)
25分	○各グループに画用紙を1枚配布する。 ○学習活動の説明。(5分) ①自分が持っている色(クレヨン)は自分しか使えない。 ②各グループのメンバーが持っている色をすべて使う。 ③「自然」の絵を描く。 ④「自然」のイメージは各グループで相談して自由に決めてよい。 ○各グループで絵を描く。(15分) (描いた絵にタイトル(題名)を付ける。(5分))	八つ切り(又はスケッチブックサイズ)の画用紙(グループに1枚) 画用紙は横長に使う 動物(ほ乳類、昆虫、鳥、魚など)が描かれていなければ、何か1つは描くようにする。
45分	○各グループに模造紙を1枚配布し、描いた絵を模造紙の上に置く。 ○学習活動の説明(10分) ①グループで描いた「自然」の絵の中の様々なつながりやかかわりをできるだけたくさん見つける。 ②書き方は「○○と△△:××(つながりの意味)」というように書く。「○○」と「△△」はどちらを先に書いてもよい。 ③書き方の例 ・太陽と木:光合成 ・虫と鳥:エサ ・木陰と動物:癒し ④科学的に正しいかどうかを厳密に考えず、できるだけたくさん見つけるようにする。 ○各自、絵を見ながら、できるだけたくさんカードを書く。(10分) ○順番に、自分の書いたカードを説明しながら、絵のまわり(模造紙の上)に並べる。(5分) ○カードをつながりやかかわりの性質に応じて分類する。(20分)	模造紙(グループに1枚) カード(ポストイット等) サインペン(又はマジック) ノリ(又はセロテープ)
	○各グループが見つけたつながりを発表する。 ○やってみた感想を共有する。	1グループ3~5分



参考文献

- ・川嶋宗継・市川智史・今村光章編著『環境教育への招待』ミネルヴァ書房、2002年。
- ・星野欣生「1 体験から学ぶということ—体験学習の循環過程—」津村俊充・山口真人編『人間関係トレーニング—私を育てる教育への人間学的アプローチ』ナカニシヤ出版、1992年、pp. 5-10.
- ・市川智史『身近な環境への気づきを高める環境教育手法 —「環境経験学習」から「指示書方式」への展開』大学教育出版、2011年。